

第11章 深化する露中関係 ——高まり続けるロシアのプレゼンス

熊倉 潤

はじめに

2021年夏のアフガニスタン問題、2022年1月のカザフスタン問題など、中央ユーラシア地域の安定に関わる重大な事案が次々と浮上するなか、ロシアと中国の関係は、どのように推移しているのだろうか。2021年を通じて、露中善隣友好協力条約の更新が正式に発表され、2022年2月の北京オリンピック開幕式には、プーチン大統領が出席するなど、露中関係は友好一色に見える。政治だけでなく経済の面でも、露中間の2021年の貿易額は、年末を待たずに前年のそれを上回ることが確実な情勢となった¹。

このように露中間の協力関係が政治、経済の両面で進展していることは一見して明らかだが、そのことはしばしば言われるように、ロシアが中国の格下のパートナーないし「衛星国」に成り下がることを意味しているのだろうか²。結論から言えば、両国の協力関係はますます深化すると同時に、ロシアのプレゼンスが高まっているように思われる。

2020年度の本研究会報告書の拙稿³において指摘したように、両国関係には、経済的には中国がはるかに巨大であるにもかかわらず、ロシアはあくまで独立した立場を維持し、中国の格下のパートナーに成り下がらないでいるという特徴がある。一帯一路構想に関して言えば、中国の掲げる「シルクロード経済ベルト」とロシア率いる「ユーラシア経済同盟」(EAEU)が連携するという認識のもと、ロシアは中国と対等なパートナーとして振る舞ってきた。また2020年に再燃した中印国境紛争においては、ロシアは両国の調停者の役回りを果たした。

2021年に入ってから、5月に中国との原子力協力の面で、中国の原発にロシア製原子炉4基を設置する記念式典がオンラインで執り行われ、プーチン大統領と習近平国家主席が立ち会った。ロシアは米中間のデカップリングに対し、中国に援助の手を差し伸べることで、支援者としての一面を見せた。北京オリンピックについても、プーチン大統領は開幕式への出席を表明することで、西側の外交ボイコットを横目に、中国のよき理解者としての姿勢を示してきた。

さらに言えば、ロシアには中国にとって安全保障上の共闘者としての一面もある。この面でのロシアのプレゼンスは、2021年夏のアフガニスタン問題、2022年1月のカザフスタン問題において、ますます高まったように思われる。本稿では、この2つの事案を通じてロシアが中国に見せた、安全保障上の共闘者としての一面と、中国側から見て高まり続けるロシアのプレゼンスについて考察したい。

1. アフガニスタン問題と露中関係

2021年夏、アフガニスタンからの米軍撤退及びタリバン勢力の捲土重来は、同地で再び「テロ」が活発になり、地域の不安定化を引き起こすのではないかという恐れを世界中に抱かせた。このときとりわけ地理的に近接するロシアと中国がこの脅威をより深刻に受け止めたことは、6月28日の習近平国家主席とプーチン大統領のオンライン会談において、双

方がアフガニスタン情勢を注視し、地域の平和と安全、安定を共同で維持することを強調したことから窺える⁴。7月14日にタジキスタンの首都ドゥシャンベで開催された上海協力機構の外相会合において、アフガニスタン情勢について、早期停戦、暴力の停止、和平プロセスを求める共同声明が採択されたのも、この時期の露中両国の切迫した関心をよく表している。

さらに8月前半、中国の寧夏回族自治区において1万人以上が参加する露中合同軍事演習「西部・聯合2021」が行われたことも注目に値する。中国国防部は、この演習を通じて「テロリストの勢力を攻撃し、地区の平和と安定を共同で維持する決心と能力を示す⁵」と発表しており、この演習がアフガニスタン情勢を睨んで行われたものであることは明らかである。以上の露中首脳会談、上海協力機構外相会合、露中合同軍事演習からわかるように、両国はいわゆる「反テロ」の面で利害を共にしており、共同歩調をとった。

同時に、露中共闘のもう1つの方向性である、アメリカへの対抗という側面も看過できない。両国が「反テロ」の文脈でアフガニスタンの不安定化に対し抱えた懸念は、これまでのチェチェン、新疆ウイグル自治区における「テロとの戦い」を思うに、それぞれかなりリアルなものであった。それだけに露中両国は、アフガニスタンから撤退するアメリカに対して批判的姿勢を隠さなかった。7月の上海協力機構外相会合後、王毅外相は、アメリカはアフガニスタン問題をつくった張本人で、地域の安定に責任があると名指しで非難した⁶。このときラブロフ外相も、アメリカ人は任務が完了したと言っているが、任務が失敗に終わったことは誰の眼にも明らかだと批判した⁷。

2021年8月25日の露中首脳電話会談においても、習近平国家主席は「靴が自分の足に合うか否かは靴を履いている者にしか分からない」と述べ、アフガニスタンに欧米式の民主主義体制を押しつけてきた米国を暗に批判し、露中間での「反干渉協力の深化」を訴えた。プーチン大統領も「アフガン情勢は、外部勢力がその政治モデルを押しつけても破壊と災難をもたらすだけということを示している」と応じ、中国側と密接に協調すると述べたとされる⁸。

このように2021年夏のアフガニスタン問題を通じて、両国はアメリカのいわば無責任な介入と撤退を批判するという点で一致し、いつもながらの対米批判の文脈で歩調を合わせたと言えよう。同時にロシアは、「反テロ」という観点から、中国と軍事演習を行い、地域の混乱を未然に防ぐ中国の共闘者としての立場を強めたように見える。アフガニスタン問題は中国において新疆ウイグル自治区の安定に直結する問題であると考えられており、ロシアは地域の安定を確保する上での強力なパートナーとして、プレゼンスをいっそう高めたと言えよう。

2. カザフスタン問題と露中関係

2022年1月、カザフスタンで起こった一連の混乱に対しても、露中両国は封じ込めの方向で利害が一致した。ただここでは「反テロ」という観点もあるものの、「カラー革命」の動きを鎮圧する方向で認識を共有したという微妙な違いがある。

中国側は当初、カザフスタンの混乱は、あくまで同国の内政上の問題であるとの立場をとっていた⁹。しかし1月6日、カザフスタンのトカエフ大統領の要請を受けて、ロシア主導の軍事同盟「集団安全保障条約機構」(CSTO)が部隊派遣を決めると、中国も鎮圧を

支持するとの姿勢を打ち出した。

1月7日に習近平国家主席自ら、トカエフ大統領宛のメッセージを発出し、トカエフの決断を支持する旨を伝達した。メッセージにおいて習近平は、「中国側は、カザフスタンの安定を破壊し、カザフスタンの安全を脅かすいかなる勢力にも断固反対であり、カザフスタン人民の平穏な生活を破壊するいかなる勢力にも断固反対であり、外部勢力がカザフスタンで混乱を作り出そうとし、『カラー革命』を起こそうとすることに断固反対であり、中国とカザフスタンの友好を破壊し、両国の協力を干渉するいかなる企みにも断固反対である」と強調した¹⁰。要するに、「カラー革命」の防止と安定の維持の観点から、トカエフ政権による武力鎮圧が支持されたのである。もっとも、この段階では CSTO の部隊派遣への支持は公に示されなかった。

その3日後の1月10日、露中外相電話会談が開催され、中国側はついに CSTO の部隊派遣を支持する。王毅外相は、「中国側はカザフスタンの暴力テロ事件の性質についてトカエフ大統領の判断と同じように考えており、CSTO がカザフスタンの主権を尊重するという前提のもとで、暴力テロ勢力の鎮圧に協力し、安定の回復に積極的な役割を果たすことを支持する」と述べた¹¹。要するに王毅外相は、カザフスタンの主権尊重という条件付きながら、ロシアの行動を追認したのである。

ところでこのとき王毅外相は、露中双方が協力を強化し、外部勢力の中央アジアへの介入に反対し、「カラー革命」そして「三つの勢力」（三股勢力）が混乱を引き起こすことを防がなければならないとも述べている。「三つの勢力」とは、中国がいうところの「テロリズム、分離主義、宗教的極端主義」の三勢力の総称であり、新疆ウイグル自治区の「反テロ」政策の文脈で使用される表現である。カザフスタン情勢が新疆ウイグル自治区に波及する懸念もここに明示されたと言えよう。

こうして中国は1月6日から遅くとも1月10日までの間に、当初の内政不干渉の立場から、カザフスタンにおける「カラー革命」の陰謀を阻止する CSTO を支持するという立場に転換した。ロシアの行動は、カザフスタンの主権尊重という条件付きながら、中国の支持を取りつけたことになる。ここで重要なことは、中央アジアを自国の勢力圏と見なすロシアが、カザフスタンにおける自らの影響力を中国に認めさせたことである。かつてロシアの裏庭とも言われた中央アジアには、近年中国が経済面で、そして一部安全保障面でも進出しつつあったが¹²、今も安全保障面ではロシアが影響力を持つこと、また中国もそれを認めざるをえないことが明らかとなった。

おわりに

2021年後半から2022年の年初にかけて立て続けに起こった以上の2つの事案を経て、ロシアと中国は一層の協力関係に入ったように見える。この2つの事案は何を露中共通の脅威と見なすかにおいて多少の違いがあるが、「テロリスト」であれ、「カラー革命」を引き起こす勢力であれ、共通の脅威に対する共闘という文脈がますます強調されることとなった。中国から見ると、新疆ウイグル自治区の安定に直結するアフガニスタン、カザフスタン情勢に対処する上で、ロシアが不可欠な存在であることが改めて明らかとなった。中国にとって、安全保障面での共闘者として、ロシアのプレゼンスは否応なく高まったと言えよう。

このように考えると、プーチン率いるロシアが中国の単なる「衛星国」に成り下がろうとしているとは言い難い。むしろ注目されるのは、経済的な非対称性にもかかわらず、政治的にはロシアが中国になかなか呑み込まれようとしなないことである。対等なパートナーとして、また調停者、理解者、支援者、そして共闘者として振る舞うことで、ロシアは中国に対する自国の地位を特別なものにしてきたと考えられる。

他方、中国がロシアにとって何なのかということも問題である。ロシアから見て、中国は確かに重要なパートナーである。しかしロシアがさまざまな役割を果たすなか、中国がロシアを必要とするほど、ロシアが中国を必要としているのかは疑問である。本稿の観点から言えば、アフガニスタン、カザフスタン情勢との関連で、中国には新疆問題という大変な国内問題があるが、現在ロシアには、「カラー革命」の波及という不安を除けば、それほど深刻な国内問題はない。中国がロシアに安全保障上の共闘者としての役割を期待することはあっても、ロシアが中央ユーラシア地域の安全保障の面で中国に期待することはさほどない。またロシアには、中国だけでなくインド、ベトナム、日本などと同時に仲良くしていこうというスタンスがあり、最近またそうした論調が強まっているようにも思われる¹³。高まり続けるロシアのプレゼンスが露中関係をどう変えるのか、今後も注視を続ける必要があるだろう。

2020年以降の露中関係

2020年	1月31日	ロシア、新型コロナウイルス感染症により中国との陸上国境を通行制限
	3月19日	露中首脳電話会談、感染症対策における相互支持を確認
	4月8日	中国、ロシアとの陸上国境を閉鎖
	4月16日	露中首脳電話会談、感染症問題での協力を確認
	5月8日	露中首脳電話会談、感染症問題における中国批判への反対を確認
	6月18日	「一帯一路」国際協力ハイレベル会議（オンライン）、ラブロフ外相欠席
	6月23日	中印間の武力衝突を受けて、露中印外相オンライン協議
	7月8日	露中首脳電話会談。プーチン、香港国家安全維持法へ支持を表明
	9月4日	ロシアの仲介による中印国防相会談、10日、露中印外相会談（ロシア）
	11月10日	上海協力機構サミット（ロシア、オンライン）
	11月17日	ブリックス・サミット（ロシア、オンライン）
	11月21日	G20サミット（サウジアラビア、オンライン）
	12月28日	露中首脳電話会談、バイデン政権発足を見据えて連携確認
2021年	3月23日	露中外相会談（桂林）
	5月19日	露中首脳、ロシア製原子炉の設置記念式典にオンライン会議で立ち会い
	5月25日	プーチン、モスクワ訪問中の楊潔篪に電話
	6月28日	露中首脳オンライン会談、露中善隣友好協力条約の更新を発表
	7月15日	露中外相会談（ウズベキスタン）
	8月25日	露中首脳電話会談、アフガニスタン問題について意見交換
	9月9日	ブリックス・サミット（インド、オンライン）
	9月16日	露中・パキスタン・イランのアフガン関連非公式外相会合（タジキスタン）
	9月17日	上海協力機構サミット（タジキスタン、オンライン）
	10月30日	G20サミット（イタリア、オンライン）、露中外相会談（イタリア）

	11 月 26 日	露中印外相オンライン会談
	12 月 15 日	露中首脳オンライン会談
2022 年	1 月 7 日	習近平、トカエフ・カザフ大統領に武力鎮圧の支持を伝達
	1 月 10 日	露中外交相電話会談。王毅外相、CSTO のカザフ派兵を支持
	2 月 4 日	プーチン大統領訪中、露中首脳会談（北京）

— 注 —

- 1 中華人民共和国中央人民政府「中俄前 11 個月貿易額超過去年全年」2021 年 12 月 15 日。<http://www.gov.cn/xinwen/2021-12/15/content_5660935.htm>
(本稿の引用は全て 1 月 27 日最終閲覧)
- 2 こうした「衛星国」化に関する言説の例として、カーネギー財団モスクワセンターのシニアフェローであるアレクサンドル・ガブエフ (Alexander Gabuev) の議論が知られる。その要点を日本語でまとめたものとして下記のインタビュー記事がある。池田元博「ロシア、中国の衛星国化も アレクサンドル・ガブエフ氏」『日本経済新聞』、2020 年 12 月 10 日 <<https://www.nikkei.com/article/DGXXKZO67155220Z01C20A2TCT000?unlock=1>>
- 3 熊倉潤「2020 年の露中関係：『一带一路』と中印国境紛争をめぐって」『大国間競争時代のロシア』研究会報告書、日本国際問題研究所、2021 年、79-84 ページ。<https://www.jiia.or.jp/pdf/research/R02_Russia/08-kumakura.pdf>
- 4 アフガニスタン問題に対する中国側の懸念、また中国とアフガニスタンの近年の関係については以下の拙稿を参照。熊倉潤「アフガニスタンへの関与を深める中国 中露の利害はどこまで一致しているのか」『中央公論』10 月号、2021 年、68-75 頁；「東トルキスタン・イスラーム運動とは何か－中国における「反テロ」の論理と新疆政策」『外交』69 号、2021 年 9 月、56-61 頁。<http://www.gaiko-web.jp/test/wp-content/uploads/2021/09/Vol69_p56-61_east_turkestan_islamic_movement.pdf>；「タリバン政権への関与を探る中国：具体的な政策や方向性はまだ見えず」Nippon.com、2021 年 11 月。<<https://www.nippon.com/ja/in-depth/a07802/>>
- 5 中国国防部「2021 年 7 月国防部例行記者會文字実録」2021 年 7 月 29 日。<http://www.mod.gov.cn/jzhzt/2021-07/29/content_4890594.htm>
- 6 中国新聞網「王毅談美從阿富汗撤軍：美国需以負責任方式確保局勢平穩過渡」2021 年 7 月 18 日。<<https://www.chinanews.com/gn/2021/07-18/9522636.shtml>>
- 7 ИТАР-ТАСС, “Лавров заявил, что миссия США в Афганистане провалилась,” 16.07.2021. <<https://tass.ru/politika/11921031>>
- 8 中国外交部「習近平同俄羅斯總統普京通電話」2021 年 8 月 25 日。<https://www.fmprc.gov.cn/zyxw/202108/t20210825_9136997.shtml>
- 9 中国外交部「2022 年 1 月 6 日外交部發言人汪文斌主持例行記者會」2022 年 1 月 6 日。<https://www.fmprc.gov.cn/web/wjdt_674879/fyrbt_674889/202201/t20220106_10479459.shtml>
- 10 中国外交部「習近平向哈薩克斯坦總統托卡耶夫致口信」2022 年 1 月 7 日。<https://www.mfa.gov.cn/web/wjdt_674879/gjldrh_674881/202201/t20220107_10479994.shtml>
- 11 中国外交部「王毅同俄羅斯外長拉夫羅夫通電話」2022 年 1 月 11 日。<https://www.mfa.gov.cn/web/wjdt_674879/gjldrh_674881/202201/t20220111_10480831.shtml>
- 12 安全保障面での中国の進出の例として、2021 年 8 月 18 日から 19 日にかけて、タジキスタンの首都ドゥシャンベで中国公安部がタジキスタン内務省と合同で「反テロ演習」を実施した。熊倉潤「アフガニスタンへの関与を深める中国 中露の利害はどこまで一致しているのか」75 頁。
- 13 そうした議論の一例として、アレクセイ・マスロフ (Alexey Maslov) の議論を参照。Взгляд, “Россия и Китай объединяются против доллара,” 15.12.2021. <<https://vz.ru/politics/2021/12/15/1134251.html>>